

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 13年9月

～7-9 月期の外需寄与度は前期比▲0.3%  
程度のマイナスに

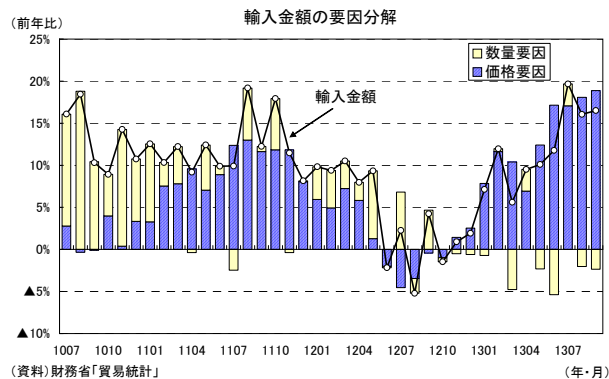
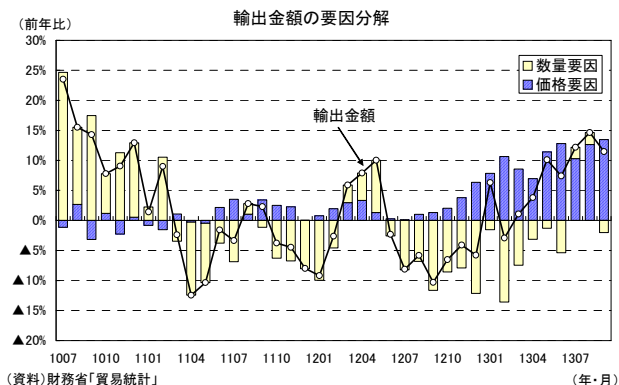
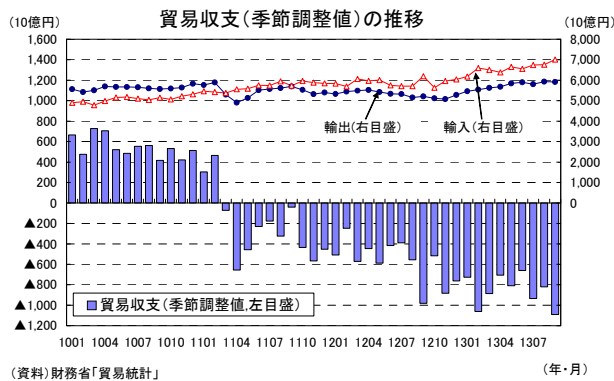
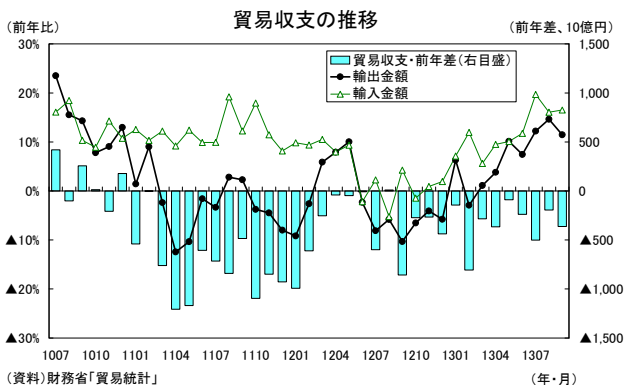
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 大幅な貿易赤字が続く

財務省が10月21日に公表した貿易統計によると、13年9月の貿易収支は▲9,321億円と15ヵ月連続の赤字となり、赤字幅はほぼ事前の市場予想（QUICK集計：▲9,339億円、当社予想は▲9,171億円）通りとなった。輸出入ともに前年比で二桁の伸びとなったが、輸入が前年比16.5%と8月の同16.0%から伸びを若干高める一方、輸出数量が3ヵ月ぶりに前年比でマイナスに転じたことにより、輸出金額の伸びが8月の前年比14.6%から同11.5%へと鈍化したため、前年に比べた貿易収支の悪化幅は前月よりも拡大した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲1.9%（8月：同1.9%）、輸出価格が前年比13.6%（8月：同12.5%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲2.2%（8月：同▲1.9%）、輸入価格が前年比19.1%（8月：同18.2%）であった。



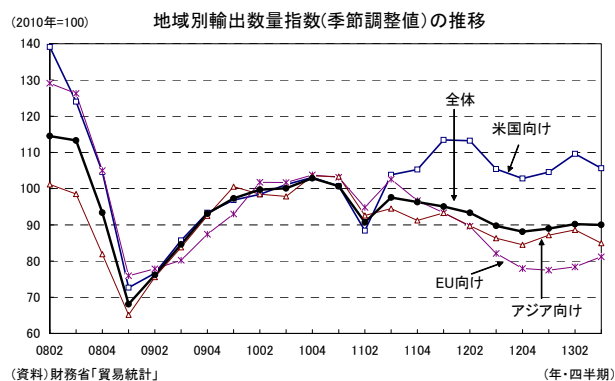
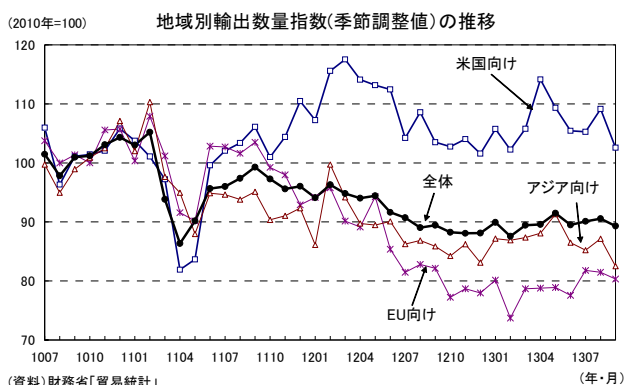
季節調整済の貿易収支は▲10,913億円と31ヵ月連続の赤字となり、8月の▲8,208億円から赤字幅が拡大した。輸出が前月比▲0.3%（8月：同2.2%）と2ヵ月ぶりの減少となる一方、円安、原油価格の高止まりから輸入が前月比3.8%（8月：同0.2%）の高い伸びとなった。四半期ベースの貿易赤字は13年1-3月期の▲10.7兆円（季節調整済・年率換算値）から4-6月期には▲8.7兆円へと縮小したが、7-9月期は▲11.4兆円と再び拡大した。

## 2. 輸出の伸び悩みが続く

9月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲1.2%（8月：同0.9%）、EU向けが前年比▲2.1%（8月：同▲1.2%）、アジア向けが前年比▲4.0%（8月：同0.4%）となった。

7-9月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比▲3.6%（4-6月期：同4.8%）、EU向けが前期比3.5%（4-6月期：同1.2%）、アジア向けが前期比▲4.1%（4-6月期：同1.7%）、全体では前期比▲0.2%（4-6月期：同1.4%）となった。

4-6月期の経済成長率が6四半期ぶりのプラスとなり、景気が底入れしつつあるEU向けは持ち直しつつあるものの、米国向け、アジア向けが大きく落ち込んだ。米国向けは4-6月期に高い伸びとなった反動の側面もあるが、アジア向けはASEAN向けを中心に基調として弱い動きが続いていると判断される。



## 3. 7-9月期の外需寄与度は前期比▲0.3%程度のマイナスに

9月までの貿易統計と8月までの国際収支統計の結果を踏まえて、7-9月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出が前期比▲0.5%程度の減少、輸入が前期比2%程度の増加となることが見込まれる。この結果、7-9月期の外需寄与度は前期比▲0.3%（4-6月期：同0.2%）と3四半期ぶりのマイナスとなることが予想される。

当研究所では鉱工業生産、家計調査、建築着工統計等の結果を受けて、10/31のweeklyエコノミストレーターで7-9月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。現時点では、国内需要は住宅投資、公的固定資本形成を中心に堅調を維持しているが、外需が3四半期ぶりに成長率の押し下げ要因となることから、実質GDP成長率は前期比年率2%弱となり、5四半期連続のプラス成長は確保するものの、4-6月期の同3.8%からは大きく減速すると予想している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。